

平成30年度

地方自治研究セミナー (第1回) 報告

期 日：平成30年12月20日(木) 13:30～

場 所：国見町観月台文化センター 大研修室

演 題：地方議会が抱える課題と可能性

講 師：福島大学行政政策学類教授 中川 伸二 氏

国見町議会

東海林一樹	議長	・・・・・・・・	2
阿部泰藏	副議長	・・・・・・・・	3
八島博正	委員	・・・・・・・・	4
浅野富男	委員	・・・・・・・・	5
松浦常雄	委員	・・・・・・・・	6
渡辺勝弘	委員	・・・・・・・・	7
佐藤定男	委員	・・・・・・・・	8
村上 一	委員	・・・・・・・・	9
松浦和子	委員	・・・・・・・・	10

地方自治研究交流セミナー（第1回） 報告書

平成31年1月7日

国見町議会議員 東海林 一樹

【開催日時】平成30年12月20日 午後1時30分～3時30分

【会場】観月台文化センター大研修室

1. 演 題

「地方議会が抱える課題と可能性」

2. 講 師

福島大学行政政策学類 教授 中川伸二氏

3. 内 容

(1) 地方議会を取り巻く現状

- ①二元代表制の認識の広がり
- ②曲がり角に立つ議会改革
- ③投票率の低下および無投票当選の増加など

(2) 町村議会における深刻ななりて不足の理由

- ①議決事項の増加や議員定数の削減による議員への負担増
- ②低いままの議員報酬

○桑折町では無投票選挙が続いており、昨年町長選挙に合わせて欠員になっている1名の補欠選挙に立候補する人が居なかったことでかなり深刻である。ただこれ以上定員を削減する事は出来ない考えで 何らかの解決策を模索しなければとされている。川俣町と国見町はそこまで深刻ではなく、議員になった動機の60%以上の方が住んでいる町を良くしたかったということから今後もそういう人が出てくることに期待をしているということである。

地方自治研究交流セミナー（第1回）報告書

平成31年1月8日

国見町議会議長 東海林一樹 様

国見町議会議員 阿部泰蔵

【期 日】平成30年12月20日（木）午後1時30分

【場 所】国見町観月台文化センター

【講 師】福島大学行政政策学類教授 中川伸二氏

【研修課題】地方議会が抱える課題と可能性

【地方議会の現状】

全国市町村議員の投票率低下と選挙の無競争当選になっていることから、都道府県と市町村（1,788）団体の議会議長に議員のなり手不足についてアンケートを実施したところ1,774の自治体から答えが出た、52%の議会ではなり手不足を感じる答えがでた。町村議会では59%議会で不足を感じる答えでした。

【議員なり手不足今後の対策アンケート】

今後の対策として報酬の引き上げが48%、住民の喚起38%、自治体と取引のある企業の役員が議員になれないことの兼業制限の緩和を求める意見も出た。

国見町議会の状況は平成の大合併では、町の自立で進むことになり財政難を想定し、議員定数を18名から12名に削減したが町の人口減少に歯止めがかからない中、議員のなり手不足が深刻化する恐れがあります。

地方自治研究交流セミナー（第1回） 報告書

平成31年1月7日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 八島博正

【開催日時】 平成30年12月20日 午後1時30分～3時30分

【会場】 観月台文化センター

1. 演 題

「地方議会が抱える課題と可能性」

2. 講 師

福島大学行政政策学類 教授 中川伸二氏

3. 内 容

- 1) 地方議会を取り巻く現状
- 2) 町村議会における深刻な「なり手」不足
- 3) 若者と議会

以上について約2時間に亘り講演があった。

その後30分位質疑があり各町より質問があった。

【感 想】

- ① 議会についての現況は、どこでもその原因は似たり寄ったりで究明はされている。現在の議員のなり手不足と言うより、各町村の自営する後継者が居なくなっている問題解決が必要である。
- ② 議会改革のメニューは大体並った。その中から何を選んで、具体的に解決していくかの時代である。
- ③ 議会改革は議員だけの問題でなく、住民を巻き込んだ改革が必要である。以上3点が今後取り組むべき課題であると感じた。

以 上

地方自治研究セミナー（第1回）についての報告

国見町議会議長 東海林一樹 様

平成31年 1月 7日
国見町議会議員 浅野富男

開催日時 平成30年12月20日 午後1時30分～
場所 国見町観月台文化センター 大研修室
演題 地方議会が抱える課題と可能性
講師 福島大学行政政策学類教授 中川 伸二 氏

議会基本条例の制定は2013年がピークで今日に及んでいる。地方議会を取り巻く情勢の話から始まったが、最初の二元代表制の認識の広がりについては、東京都の小池知事が都民ファーストの会の代表に就任することへの疑問、批判が噴出したことにふれたが、このことはいわゆる車の両輪の機能をないがしろにするものとの意味だろうと思う。議会基本条例は制定されたものの、住民はどのような感覚で捉えているのか、議会が試されるところに来ているものと思う。

投票率の低下や無投票当選の増加そして町村議会におけるなり手不足の問題についても話された。このことは議会自身の問題として考えている人が多いのではないかとの話もあったが、兼職の禁止、議員定数の削減、低いままの議員報酬、拘束時間の長期化など負の面が多いことも実体としてあるとのこと。また若者が出てこないことについては、学校を通じた地域とのかかわりは多いが、学校の政治的中立については、政治や議会をタブー視するような教育についても誤解しているのではないかとのことである。

「報告会」についても目に見える成果にはなかなかつながらないことから、政策形式の強化、審議の充実・活性化、住民参加・協働の取組、公正・透明性、条例等の整備など、若者目線ではモノが欲しいではなく、コトが欲しいすなわち成功体験が人の心を動かすことにつながる。最後に政治と地域がクロスする場として、ネガティブなイメージを変え地域への関わりを学ぶところであり、地方政治は民主主義の学校である結んだ。

【感想】

地方議会の改革が提唱されてから十数年になるのであろうか。講師の中川教授の話は県内各市町村の議会についての知見が豊富である。各地の議会改革基本条例制定に携わったことによるものと思う。地方議会が抱える課題とは議会と住民との意識のずれ、乖離した形になっている事と思っている。講師の話も議会が発行している議会だよりの話から始まった。議会だよりは何のために出すのか、これに焦点を当てた話では第3者が作るとどうなるか、その第3の学生の目線で見ると平等な扱いが害になっているとのことである。しかし議員が作ればどうしてもお知らせ的なものになり、平等な扱いになってしまうという皮肉な話は、地方議会の抱えている本題ではないだろうか。

地方自治研究交流セミナー（第1回）報告書

平成31年1月31日

国見町議会議長 東海林一樹 様

国見町議会議員 松浦常雄

【研修日時】 平成30年12月20日（水）午後1時30分～3時30分

【会 場】 国見町「観月台文化センター」

【講 師】 福島大学 行政政策学類 教授 中川伸二氏

【演 題】 「地方議会が抱える課題と可能性」

(1) 地方議会を取り巻く現状

① 二元代表制の認識の広がり

- ・首長である小池東京都知事が政党の党首になることは、二元代表制に反するので はないかという疑問や批判が噴出したことからわかる。

(2) 曲がり角に立つ議会改革、

①議会基本条例制定数の頭打ち

②議会間格差の存在 「先駆議会」「居眠り議会」「寝たきり議会」

- ・議会改革の課題は、明確になっているが、取り組みは不十分である。

(3) 投票率の低下及び、無投票当選の増加

- ・住民の危機感の希薄さを示している。

投票率の低下や候補者不足は、議会自身の問題と考えている人が多いのではないかと。与えられている権利を有効に活用しようという意識が低い。

- ・人的・財政的資源が限界に来ている。

(4) 町村議会における深刻ななり手不足の要因

- ・議員定数削減による議員への負担増および低いままの議員報酬が問題。
- ・不足の原因を探るのも大事だが、現職の議員の姿からなり手問題を考える必要も

(5) 若者と議会について

- ・政治と若者（若者は、政治については、教科書で制度についての知識しか得られず、メディアによってネガティブなイメージを持っている。）
- ・学校教育では、政治や議会将タブー視され、十分な教育を受けていない。
- ・地方議会は、若者の政治へのネガティブなイメージを変え、地域への関わりを学ぶ重要な学びの場となりうる。

【感想】

①町村議会が抱える課題とその解決策について、重要な示唆を与えられた。

②地方議会議員のなり手不足の打開策は、若者が議員報酬で家族を養える報酬を与えること不可欠である。それは、地方議会ができることではなく、総務省など政府の機関がリードして決める問題である。そこまで踏み込んだ意見がほしかった。

平成30年度地方自治交流セミナー（第1回）報告書

平成31年1月7日

国見町議会議長 東海林 一樹 様

国見町議会議員 渡邊 勝弘

【研修日時】 平成30年12月20日（木） 午後1時30分～午後3時30分

【場 所】 国見町 観月台文化センター 大研修室

【研修内容】

1、演 題

「地方議会が抱える課題と可能性」について

2、講 師

福島大学行政政策学類教授 中 川 伸 二 氏

3、内 容・感 想

地方議会を取り巻く現状として、地方選挙の投票による投票率の低下及び無投票当選の増加が考えられる。議会基本条例制定数の頭打ちとなり、議会間格差の存在があり「先駆議会」「居眠り議会」「寝たきり議会」と酷評されているところもある。

町村議会における深刻ななり手不足の現況において低いままの議員報酬、拘束時間の長期化などが考えられる。また、若者と議会との関係として制度の説明に終始する教科書だけの知識であり、メディアに左右される若者が多くみられる。

しかし地方議会は地域と密接な関係であり地域の住民の声を聞ける唯一の立場あることに自信を持つべきと考える。そのためにも、自身の日々の係わり合いが重要である。報酬の増加を考えると若者のなり手不足を解消できる議論ではなく。なぜ、議会に興味がないのか若者の声を聞きその上でその打開策を講じるべきと考えます。そのひとつとして、報酬アップであっても住民に理解を得ることになると思われます。

我々議員は、まず初心に立ち返りこの町が好きでこの町を良くしたい、未来を見据えてこうして行きたいとか、様々な考えをもっていたはずで、その気持ちを打ち出し、行動することで住民と意見が一致するその手本を見せることで、若者が自分の町を好きになってもらうことが第一で、その先に議員になりたい願望が芽生えると期待したいと思います。

地方自治研究交流セミナー（第1回） 報告書

平成30年12月21日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 佐藤定男

【開催日時】平成30年12月20日 午後1時30分～3時30分

【会場】観月台文化センター

1. 演題

「地方議会が抱える課題と可能性」

2. 講師

福島大学行政政策学類 教授 中川伸二氏

3. 内容

(1) 地方議会を取り巻く現状

○議会改革は、議会基本条例制定数が頭打ちとなっており曲がり角に立っている。

改革のメニューは揃っており後は料理する料理人の問題ではないか。

○投票率の低下及び無投票当選の問題は、議会・議員自身が解決すべきもので、我々住民はあまり関係ないと考えている人が多いのではないか。

本質は住民の問題であるのに、住民の危機感があまり感じられない。

(2) 町村議会における深刻な「なり手」不足

○議員のなり手不足は低いままの議員報酬や、拘束時間の長期化など色々あるだろう。

○アンケートで議員になろうとした理由に「自分の町を良くするため」と回答した人が1番多かった。地域とのつながりを重視している。

(3) ディスカッション

○議員のなり手不足の問題で報酬は大きなウエイトを占めるのではないか。

⇒報酬はあくまで後押しの位置づけであろう。この問題は議会だけの問題

ではなく自分たち（住民）の問題である。いかに議員の仕事が魅力的で

興味を持たせることができるかが課題となる。議会内部の改革から住民を巻き込む改革へと、ステップアップを図っていかなければならない。

【感想】

○議員のなり手不足は色んな理由があると思うが、これで解決という決定打はないのだろう。

制度論を含め、各個人が有権者の一人として、自分自身の問題として考えていかなければ本当の意味で解決しないのではないか。

以上

地方自治研修交流セミナー（第1回）報告書

平成 31 年 1 月 7 日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 村上 一

【日 時】平成 30 年 12 月 20 日（木）

【場 所】観月台文化センター

【内 容】《テーマ》 地方議会が抱える課題と可能性

《講師》 福島大学行政政策学類教授 中川伸二氏

1. 地方議会との関わり

町民の議員に対しての意思の変化が大きい。議会だよりや議会報告懇談会等により住民に啓蒙活動を実施しているが、一部の町民にしか理解されていない。

2. 地方議会を取巻く現状

(1) 二元代表制の認識の広がり

(2) 曲り角に立つ議会改革

(3) 投票率の低下及び無投票当選の増加

3. 町村議会における深刻ななり手不足

兼職の禁止や議員請負禁止といった規制

議決事項の増加や議員定数の削減による議員の負担増

4. 若者と議会

学校教育では政治や議会をタブー視されているのではないかと。

議会内部の自己改革運動としての議会改革から住民を巻き込む改革へのステップアップを、議会が内向きの論理から脱却できるかが課題である。

【感想】

今回の講演は、地方議会が抱える課題と現状についてであるが、各町によって内情の違いがあり、議会改革も町独自で進めていく必要があると思う。国見町では昨年の 10 月 30 日に小学 6 年生を対象とした子ども議会が開催され、町議会の理解を得るには重要な機会だったと思う。また、議会改革のキーワードがあるように感じさせられた。今後議会改革を進めるには、住民の巻き込みを図っていく事が必要だと思ふ。

地方自治研究交流セミナー（第1回）報告書

平成30年12月27日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 松浦和子

1. 日時 平成30年12月20日（木）午後1時30分
2. 場所 観月台文化センター 大研修室
3. 研修名 平成30年度地方自治交流セミナー（第1回）

【講師】 福島大学行政政策学類教授 中川伸二氏

【内容】

1、講演：演題「地方議会が抱える課題と可能性」

(1)地方議会を取り巻く現状

- ・二元代表制の認識の広がり
- ・曲がり角に立つ議会改革
- ・投票率の低下および無投票当選の増加

(2)町村議会における深刻ななり手不足

- ・よく指摘される偏った議員構成や多様性の欠如⇒なり手不足の問題
- ・町村議会のあり方に関する報告書
- ・不足の原因を探るのも大事だが、現職の議員の姿からなり手問題を考える必要も

(3)若者と議会

- ・政治と若者
- ・地域と若者

2、ディスカッション

- ・桑折町議会議長：無競争、補選も含めて3回になった。若い人たちに関心を持ってもらいたい。
- ・川俣町議会議長：無競争は今までない。若い人たちが出てこないのは問題・
- ・国見町議会議長：無競争は1度あった。4年間の中で定数を減らすべきかどうか検討、定数12名を下回るのは良くない。議会報告会でも報告した。

【感想】

福島県町村議会議長会・伊達郡町村議会議長会の主催による、地方自治交流セミナー（第1回）が観月台文化センターを会場に開催され、福島大学行政政策学類教授中川伸二氏による「地方議会が抱える課題と可能性」と題しての講演を中心に伊達郡3町の議員が研修を受けた。地方議会の厳しさや、なり手不足が3町の共通の課題のようであった。

セミナーは3回開催されるが、次回の第2回は平成31年1月23日の開催予定です。しっかり学び、議員活動に活かしていきたい。